



北海道・恵庭市の挑戦

花のまち・絵本のまち 子育てのまち えにわの 夢

北海道 恵庭市子ども家庭課長 いのぐち 猪口 信幸

■花のまち恵庭■



札幌大通公園は、市民の憩いの場です。冬はホワイトイルミネーションや雪祭り、夏はビアガーデンの会場になり、焼きトウキビのワゴンが並びます。昼にはOLが弁当を広げ、噴水の周りや芝生を走る子どもたちの声が飛び交います。1Kmを超える大通公園を彩る花壇の花の80%が、実は恵庭産なのです。花のまち恵庭は花の生産のまちでもあるのです。

■クライストチャーチ視察団■

今から19年前、ニュージーランドのクライストチャーチを視察した恵庭市民の有志が「恵み野フラワーガーデンコンテスト」を立ち上げ、道から見てきれいな庭を勝手に表彰する活動を始めました。それを機に、恵み野地区のガーディニングが一気に盛んになりました。



今では、恵庭市内の花で飾られた地域や通り、学校や企業などが、総理大臣賞を始め様々な賞を毎年受賞するまでになっています。住宅街の狭い通路を観光バスが行き交い、オープンガーデンに登録をした庭は、道行く人に開放されています。

この恵庭の花のまちづくりのきっかけとなったクライストチャーチ視察団を主宰したのが、現在の恵庭市長中島興世でした。

■ブックスタート■

ブックスタートは、すべての赤ちゃんと保護者を対象に絵本が入ったブックスタート・パックを手渡す事業です。1992年に英国で始まり、2000年に恵庭市が本格実施をはじめ、全国各地に広がりまりました。恵庭市のブックスタートは、9-10か月健診の時に実施しています。健診受診率を2年連続97%代に代引き上げる原動力にもなっています。



一方で恵庭市のブックスタートは、父親の育児参加を大幅に引き上げているとの追跡調査の結果がまとまり、子育て支援事業として評価されるまでに成長してきています。年間600出産・100万円程度のささやかな事業ですが、実に大きな成果を上げているのです。

当時、ブックスタートを手がけようとしていた図書館長の熱意に対して、図書館で活動していた読み聞かせなどの10を超えるボランティア団体が協力して、ブックスタートのためのボランティア団体「恵庭ゆりかご会」を立ちあげ応援しました。その時の図書館長こそ、中島興世でした。

読書には、子どもを取り巻く様々な問題を予防をする力がある。それが、中島興世を日本初のブックスタート事業に突き動かした信念でした。

■ 学校図書館 ■

今年の恵庭は、ブックスタートの洗礼を受けた子どもたちが小学校一年生に入学した特別な年です。本の好きな子どもたちを迎えたのは、学校司書のいる図書館でした。

北海道は学校図書館の整備が全国で最も遅れた地域で、

今でも学校司書がいるのは北海道180市町村で恵庭市だけなのです。学校司書が配置されると、図書館がよみがえるのです。資料室や会議室などと図書館との兼



用もなくなり、本にいのちが戻ったのです。

恵庭の小学校1校あたりの図書購入費は、平均200万円を超えます。これは多分全国一だと思います。更に、本を買うための学校への寄附に対して、その寄附と同額を市が負担して、寄附を倍額にする制度も動き出しました。

学校図書館ボランティアの活動も大変盛んで、様々な活動をしています。校長先生の読み聞かせなど、学校全体で読書を支える気運が高まっています。

■新市長とプレイセンターの実現■



オークランドのPC

05年秋、『子どもの問題こそ最重要の地域課題』のマニフェストを掲げた中島興世新市長が誕生しました。プレイセンターの実現は、マニフェストの重要な

施策でした。

プレイセンターを担当することになった筆者は、関係の本を集めたり日本プレイセンター協会のホームページを何度も読み返し、アクションプログラムを組み立ててみたのですが、今一つしっくり来ないのです。百聞は一見にしかず、これはニュージーランドに行くしかないと思いました。

一昨年(04年)の12月に日本プレイセンター協会主催の講習会でオークランドのカナ・パーウォーリーさんにお会いすることができ、昨年(05年)の3月にはカナさんが活動しているオークランドのバーケンヘッド・プレイセンターに行くことができました。更に日本PC協会の紹介で、同じオークランドのハウィック・プレイセンターの木下伸恵さんと調整をしていただき、一度に2カ所の視察が実現し、大変内容の濃い視察になりました。

■プレ・プレイセンター■

オークランドから帰ってきて、最初に手がけたのがプレ・プレイセンターです。前年に立ちあがった子育てサークル連絡会の方々と、「自由遊びを楽しもう!!」と題したプレイセンター版自由遊びに挑戦しました。参加のお母さんたちからは、「楽しい」「また参加したい」など大変好評でした。

今年の1月には、ニュージーランドのカナさんに恵庭に来ていただき、第4回を実施することが出来ました。



自由遊びを楽しもう!!

おやつを挟んで、本場の雰囲気を楽しみました。これまでにないダイナミックな遊びに、親も子も大満足です。私たちが大きな力をもらいました。

08年に親のための学

習、09年からは親自身による協働運営の実施を目標に、楽しく・ゆっくり・そして確かにやっつけていこうと考えています。

■子育てフォーラム■

私たちの07年の大きな取り組みの一つに、子育てフォーラムがあります。年間5回の連続開催で、最後がプレイセンターをテーマにして、1年間を総括しました。

日本プレイセンター協会の池本代表に、「子育てに自信を～競争よりも協力～」の基調講演で、プレイセンターがどのようなものなのか、何故私たちがプレイセンターを必要としているのか、が分かりやすく説明されました。多くの方にプレイセンターを知っていただく良い機会になり、恵庭市のプレイセンター実現への歩みを、更に確かなものにする事が出来ました。



基調講演/池本代表

■ニュージーランドと恵庭■

2月13日、恵庭市とニュージーランド・ティマル市との姉妹都市締結調印を、盛夏のティマル市で行われました。中島市長は、「国は違っても同じ地球に生きる仲間とし



姉妹都市調印/中島市長

て共通課題は多い。課題に挑戦し友情を育み、姉妹都市締結を意義あるものにしましょう」と熱いメッセージを送りました。

翌日早朝、調印団一行はオークランドを向かい、中島市長は空港に迎えに来てくれたカナさんと、ニュージーランド・プレイセンター協会のマリアン・ピルキングトン会長との会見に臨みました。恵庭市が自治体としてプレイセンターの実現に歩み出した報告と、今後の友好協力の約束をしました。

その後、2カ所のプレイセンターを視察した市長は、「手作りの暖かな素晴らしい施設を見せていただいた。プレイセンターへの熱い思いが、確信に変わった」と、実現への青写真を練っていました。

ニュージーランド2泊の嵐のような出張でしたが、日本PC協会、オークランドの加奈さんに大変お世話になり、貴重な収穫を得ることが出来ました。



左から市長/ピルキングトン会長/右端がカナさん

そして数日後、「プレイセンターの社会実験に着手しよう」に、という市長からの新しいミッションが届きました。